

○ 県新人について

○ 県新人の実施方法および感染対策について

令和4年10月31日(月)改定
広島県高等学校体育連盟バドミントン専門部
競技委員長 呉 洸星(広島国際学院高等学校)

はじめに

今大会の実施に係る新型コロナウイルス感染防止対策としては、『広島県高等学校体育連盟主催大会新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン第6版(令和4年10月21日版)』及び『感染予防対策について(オミクロン亜系統対応)令和4年4月15日現在』に準じて行います。この別紙においては試合当日の流れにおいて昨年度の大会の対策を踏まえた形で示しております。尚ガイドラインについては県高連 HP に掲載されております。

1. 学校対抗戦・個人対抗戦共通事項

- 遠征の実施方法について、公共交通機関、貸し切りバス及び自家用車の利用、宿泊については各学校で検討、判断し実施すること。
- 当日体調に問題のある場合(特に発熱、鼻水、のどの痛みなどの風邪症状)は、出場を控えること。ただし、検査による陰性を確認した上で、学校長の判断により参加することを可能とする。
- チーム内で体調に問題のある者が出た場合、出場の可否を学校と相談の上、慎重に検討すること。
- 試合中には十分な距離を確保しながらマスクを外してプレーを行うが、試合以外の場面では必ずマスクを着用すること(不織布マスクを推奨)。
- 1週間分の体調を記録した体調記録表(別紙1)の記録を求める。ただし、各校の様式で日々の体調記録を実施している場合、この限りではない。
- 観覧席へ座る際は、前後左右で連続しないように間隔を開けて着席すること。
- 開会式・閉会式および表彰式は行わず、朝は開場、受付完了後放送によって諸注意のみを行う。
- 試合の状況を見ながら、場合によっては試合を中断し、館内の換気を行う。
- 開場後、朝の公式練習は行わず、当日の動きの詳細について放送で指示をするので入場したら所定の位置に着席し、放送があるまで待機。
- 開場後、受付時に監督会議資料を配布し、選手変更、棄権等の届け出をする。監督会議は行わない。
- 試合を待つ間は観客席の自身の席で待機すること。フロア出入口で待機や、席の移動をしない。
- 競技フロアへの出入りの度に、出入口で必ず手指の消毒を行う。
- 審判のいすや本部席周りの消毒液、除菌シートは本部で準備するが、各チームでコーチングシートや、観覧席用の除菌シートについて必ず、消毒液もできる限り持参。
- 定期的に入出口、階段、トイレなどを中心に館内の消毒を行う。
- 審判台は使用しない。線審にはイスを用意するが、試合の度に消毒を行う。
- 試合中、ペアでの会話は対面せず、最小限の声で行う。
- 個人の試合に用いる道具(ラケット・シューズ・ウェア等)の貸し借りは禁止とし、本人以外の者が触れることがないようにする。
- コーチングシート(各エンド2席)には、今大会にエントリーしている監督・コーチ・マネージャー・選手が着席することができる。
- 競技フロア持ってきた荷物は全てバッグの中に入れておくか上に置き、床に直接置かない。

- 声を出しての応援は禁止する。席を移動し、他校の使用している席や通路での応援は禁止。
- 試合で敗退した選手は手指の消毒をし、自分の試合のスコアシート、バインダー、本部から出されたシャトル、ストップウォッチ等審判用具を本部席まで運び、次の試合の審判用具受け取り、審判を行う。
- 審判を終えた学校は速やかに会場を出ること。

2. 11/5.6 学校対抗戦

①11/5 大会1日目（1回戦～ベスト16がけまで実施）

- 無観客で実施する。ただし審判要員として各校最大2名まで会場への入場を認める。
- 開場入場時刻を2回に分け、体育館内の入場者数を削減し密を避ける。（タイムテーブル参照）
- 各入場時刻になったら、監督は受付をし、選手は諸注意を受ける。（場所は各会場にて当日指定）その後割り当てられた座席まで移動し、着席する。※今大会から学校同行者体調記録表の提出はなし
- 監督は受付後、1回戦のオーダー用紙を速やかに記入しておく。
- 受付完了後、オーダー交換および試合進行についての詳細連絡を監督、主将からチーム全員へ伝達。
- 1回戦より2コート併用して試合を行う。
- チームのベンチは各エンドに5席設け、コーチングシートは各エンドに2席ずつ設置する。
- オーダー交換は該当の試合番号を放送で呼び出し、オーダー交換所で専門部委員または本部役員が立会いの下監督同士が行う。
- 試合のコール後、監督、選手は全員コートに整列し、審判立会いの下あいさつした後、オーダー・対戦コートの確認を行う。ただし握手は行わない。
- 線審はその日の1巡目試合は本部から指定をし、2巡目以降は負けた学校が試合をしたコートの審判を行う。審判の人数が足りない場合は試合をする学校が相互に出し合う。
- 選手のみでの円陣は禁止。監督、コーチからのアドバイスの場合のみ可。
- 団体戦の開始前に各チームで3分間練習時間を設ける。
- 勝敗確定後、最初に集合したコートに監督、選手は全員コートに整列し、審判立会いの下あいさつを行う。ただし握手は行わない。
- 敗戦チームは手指の消毒後、自分たちの試合の審判用具を本部席まで運び、次の試合の審判を行うか、会場を後にするかの指示を受ける。
- 各チームで使用した椅子等をフロアに設置の除菌シートで拭いてからフロアを出る。
- 勝利チーム監督は本部席にて次戦のオーダー用紙を受け取り、記入してオーダー交換に備える。（ベスト16がけ勝利後、2日目朝に行われるベスト8がけのオーダー用紙を受け取っておくこと）
- 連続する対戦間には最低15分の時間を空ける。対戦内ダブルスからシングルスで選手が連続する試合間は最大10分の時間を空ける。
- 各開場時刻に指示があるまでは会場に入ることはいできない。周囲の迷惑にならないよう時間丁度を目指し会場に到着すること。
- 敗戦チームは敗戦後、もしくは次の試合の審判が終わり次第、速やかに会場から出ること。チームの集合ロビー、もしくは会場外で行うこと。
- 1日目の最後の試合で敗戦したチームの2日目最初の試合での敗者審判は行わない。

②11/6 大会2日目（ベスト8がけ～決勝まで実施）

- 無観客で実施する。ただし審判要員として各校最大2名まで会場への入場を認める。
- ベスト8がけ・準々決勝は1面スタート、準決勝以降は3面スタートとする。試合の進行状況や空きコートの状況によりはじめから最大3面まで開いて行う場合がある。

- チームのベンチは各エンドに5席設け、コーチングシートは各エンドに1席ずつ設置する。
- 開場後、指定の座席に着席。受付完了後、オーダー交換および試合進行についての詳細連絡を放送で行う。
- 監督は前日に受け取った1試合目のオーダー用紙を対戦相手確認後速やかに記入しておく。
- オーダー交換は該当の試合番号を放送で呼び出し、オーダー交換所で専門部委員または本部役員が立会いの下監督同士が行う。
- 試合のコール後、監督、選手は全員コートに整列し、審判立会いの下あいさつした後、オーダー・対戦コートの確認を行う。ただし握手は行わない。
- ベスト8がけの試合の審判は試合をする学校が相互に各コート2人ずつ出し合って行う。
- 団体戦の開始前に各チームで3分間練習時間を設ける。
- 勝敗確定後、最初に集合したコートに監督、選手は全員コートに整列し、審判立会いの下あいさつを行う。ただし握手は行わない。
- 敗戦チームは手指の消毒後、自分たちの試合の審判用具を本部席まで運び、次の試合の審判を行う。
- 勝利チームはコーチングシートの除菌をフロアに設置の除菌シートで拭いてからフロアを出る。
- 勝利チーム監督は本部席にて次戦のオーダー用紙を受け取り、記入してオーダー交換に備える。
- 連続する対戦間には最低15分の時間を空ける。対戦内ダブルスからシングルスで選手が連続する試合間は最大10分の時間を空ける。

3. 11/19,20 個人対抗戦

- 11/19に試合会場に入れるのは、各校監督、コーチ及び今大会個人戦に出場する選手と、選手1名につき1名の学校関係者(選手・保護者)のみとする。また、11/20に会場に入場できるのは各チーム監督、コーチ、今大会個人戦出場選手のみとする。(11/19に敗退の選手も11/20の会場への入場は可能)
- 11/19の出場選手以外の入場について
 - ・開場時に受付を行う。(保護者・シングルスのみ選手は揃ってなくても可)
 - ・保護者の入場がある学校は、『入場保護者確認表(別紙6)』を提出する。(提出は保護者が全員来てからでも可)
 - ・保護者は入場したら生徒づつに『来場者体調記録用紙(別紙3)』を顧問に提出し、取りまとめたものを顧問は本部に提出する。
- 11/19の観客席は、選手エリアと保護者エリアを分ける。
- コーチングシートに座ることができるのは団体戦に登録している各チーム監督・コーチ・マネージャー・選手のみとする。
- 開場後、座席に着席。受付完了後、試合進行についての詳細連絡を放送で行う。
- 朝の全体での練習は行わず、その日の1試合目の試合前(基本的に1回戦、シード選手は2回戦)に練習を行うことができる。
 - ・挨拶をしてから5分後には試合を開始することとする。よって、その1分前まで練習することを認める。審判は挨拶が終わったら計時をし、4分経ったら練習をやめさせ、試合を開始すること。
 - ・双方が2試合目以降の試合前練習は行わない。シングルスの場合は相手選手と練習を行う。練習用シャトルは各校持ち寄りとする。
- 1日目はダブルス全ての試合、シングルの試合番号56(32がけ)まで行う。
- 審判は敗者審判で行い、ダブルスは4名(主審、線審×2、得点表示)、シングルスは2名(主審兼線審、線審兼得点表示)で行う。人数の都合上、敗戦後、基本的に2試合連続で審判を行う。その日の1周目のコールでは本部より放送でシード選手や試合番号の遠い選手を中心に指名をする。2周目の試合は、1周目の

勝者が線審，敗者が主審，得点表示を行う。

- 1 日目の最後の試合で敗戦した選手の 2 日目最初の試合での敗者審判は行わない。
- 2 日目の審判不足については会場校の生徒等に対応する。
- 連続する試合間は最低 10 分の時間を空ける。